



葬送と墓制の現在

□オンライン開催

死生学研究所ホームページから
お申込みください

□お申込み締め切り

2024年10月2日(水) 17時

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□先着 100名様

□参加費 無料

第5回連続講座

豊田三佳

Max Planck Institute for
Human Development
(とよたみか)

10月5日(土)

16:20-17:50

ドイツにおける 引き取り手のない遺体の現状

■プロフィール

2000年、英国のハル大学にて博士課程修了。シンガポール国立大学(2002-2012)、立教大学教授(2012-2020)を経て、現在、ドイツのマックス・プランク研究所常勤研究員。専門は社会学。ケア労働者のグローバルな流動、高齢者の移住に関する研究から越境する「弔い」を考察。ベルリン在住。

■主要業績

主な論文に"From Dreadful Shame to Manageable Incident: How Post-mortem Cleaning Workers' Narratives Change the Feeling Rules about "Lonely Deaths in Japan"," *Social Science History*, 2024など。

内容紹介：

近年の単身世帯の増加は、日本に限らずドイツにおいても顕著で、特に都市部でその割合は高く、ベルリンでは単身世帯は49.8%(2022)を占めています。一人暮らしで死を迎えた後に近親者の引き取り手がいない場合は行政が対処することになりますが、2021年に亡くなった方のうち、ベルリン行政により埋葬された割合は7.25%、つまり十四人に一人という高い割合でした。高齢者の単身世帯は圧倒的に女性の数が多いのですが、死後8日以上発見されないケースは男性の割合が高いという実状は日本と類似しています。本講演では、遺品整理に関わる業者、埋葬に関わる業者とのインタビュー調査に基づき、ドイツの現状を考察します。

〈予告〉

◇(公財)国際宗教研究所共催 シンポジウム

10月19日(土) 14:40~17:50

「死別と死者との絆—悲嘆のプロセスをめぐって」

◇第6回〈公開〉連続講座

11月16日(土) 16:20~17:50

小村明子(コメニウス大学文学部専任講師)

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2024

「看取りの文化を構想する」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます

◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

お申込みはこちら

